





明治十一年四月刊行

米國扶德氏撰  
日本片山平三郎譯

# 造化秘事二編序

明治十一年

四月官許

宕陽堂藏板

3  
179  
7

東京  
學校圖書

147  
1

造化秘事二編序世ハ六ノイナ  
情慾之事豈易言哉。人民以此生。天地以此立。陰陽以此和。人倫以此序。四海萬國以此治。而安。而人之欲富願貴。謀逆為賊。以亂亡國家。亦職是之由。若夫恐之害而禁之。則曠怨多。而人道廢。喜之利而縱之。則彞倫斃。而鬪爭興。然則何為而可。曰。行之以道。節之以度。如斯而已矣。道者何。曰。夫夫妻妻。內無雄狐之姦。外無桑中之謔。是也。度者何。曰。閨房有數。而無晝寢野合之醜。是也。甚矣情慾之有關於世教也。雖然中

造化秘事二編序  
易堂藏板



其言雖似猥褻。其實則人道之大本。觀者誠信而守之。豈獨其身之幸。抑亦天下國家之福。

明治十一年四月

譯者識

造化秘事二編

目錄

上卷

- 第一章 婚姻ノ三秘事ヲ論ス
- 第二章 踰牆スル所以ノ理ヲ論ス
- 第三章 子宮ノ弛落ヲ論ス
- 下卷
- 第四章 胎兒ノ感肖スル理由ヲ論ス
- 第五章 過度ノ好色ヲ論ス
- 第六章 資質ノ合和セサルヲ論ス



第七章 遺精ヲ論ス

Blank page with faint bleed-through text from the reverse side.

造化秘事二編 乾

米國入扶徳氏撰

日本片山平三郎譯

第一章

婚姻ノ三秘事ヲ論ス

第一、心情婚

夫レ情婚ハ或ハ些少体上ニ關シ或ハ全ク体上ニ關セサル婚姻ニシテ交道、人道、心情ノ適合ヲ兼有セル結婚ト認ムヘキモノタリ其朱陳タルヤ表情体上共ニ彼此適合シタルヲ以テ充分ノ快娛ヲ致セル姻婭

造化秘事二編 乾 易堂藏



ト殆ント相ヒ伯仲スルモノトス或ル新聞編表者ノ  
 掲記スル所ニ據レハ倫敦全府ニ於テ情婚ヲ遂ケタ  
 ルモノカ、クル（即充分ノ快娛）ハ其數僅カニ百二十七人ナリ  
 ト蓋シ人々佳耦ヲ選ブニ當テ其心意ヲ富貴官爵ニ  
 注ガサル一亞國ノ風俗ニ於ルガ如キ者ナシ故ニ亞  
 國中ノ情婚ヲ遂ケタル人員ヲ以テ英國ニ比セハ必  
 ラス衆多ナルベシト仮定スルハ實ニ其理ナキニ非  
 ズ然レモ自主自由ニ鳴リ開化隆盛ニ誇ル亞國ヲ以  
 テ親睦共和ノ性質ニ乏シキ國人ニ較テレバ尚ホ情  
 婚ヲ遂ケタルモノ多シトセズ

情婚ハ又タ親ミ深キ結欵ト稱スヘシ何ントナレハ  
 彼我共ニ契約ヲ遂ケタルハ槩子真情ノ愛慕ニ因テ相  
 ヒ併合スルヲ以テナリ蓋シヤクソク那破翁トナボレワンジヨセヒー  
 トノ間ニ成レル結欵ハ則チ情婚ニシテ斯ノ如キ情  
 婚ノ夫婦ハ其間ニ至強ノ勢燄アル愛情ヲ發生シテ  
 大イニ交情ノ快娛ヲ彼我ニ分與スルモノトス而シテ  
 其匹耦タルヤ出入相共ニシ朝夕相ヒ親ミ容貌ヲ是  
 レ愛シ信實ヲ是レ喜ブ若シ時アリテ行クニ手ヲ連  
 ラ子ズ坐スルニ席ヲ同フセザル一アレバ須臾ノ間  
 ト雖モ心氣凄然トシテ懊惱待ツアルガ如ク愛慕ノ

ト雖モ心氣凄然トシテ懊惱待ツアルガ如ク愛慕ノ



極遂ニ陰々怒氣ヲ帶ブルニ至ル或ハ淫情發動シテ  
恰モ燄々タル猛火ノ輒ク消滅スベカラザル如キア  
ルモ体上ノ適合ニ於テ幾分ノ缺乏アルニ因リ交手  
抱着ノ妙快ヲ施ス能ハス故ヲ以テ充分ノ愉快ヲ感  
覺スルヲナシ

情婚者ハ墻ヲ踰ヘテ相從フノ徒ヲ釀出スルヲ他婚  
ノ者ヨリモ多シト云フ亦夕怪ムベシ蓋シ同質ノ間  
ハ其纏綿ノ快味ヲ享クルヲ及質ノモノニ於ルガ如  
クナラズシテ充分ニ妙快ヲ實享シ難キヲ以テ數バ  
欺訛ノ内ニ陥リ終ニ心志ノ壞敗腐朽セル兇徒ノ同

類ト爲リ思念ヲ碎キ鹹苦ヲ嘗テ只漸ク瞬時ノ快感  
ヲ享ルニ過サルノミ偕其情人ト相ヒ合シテ同住ス  
ルニ及ンデヤ平常ノ交ニ關セル間ダノ交情ハ曩ニ  
前後ヲ顧ミズ暴ニ擯斥セシ人ニ依テ享ケタル交情  
ノ感ニ劣レリ而メ新タニ匹耦トナルモノハ自然正  
當タル本夫ヨリ比枕上ノ快樂ヲ與フヘキ勢力ニ乏  
シキヲ發見シ且ツ曩キニ情人ト為ルノ初ニ當テ  
感受セル異常ノ快樂ハ全ク彼我ノ電氣ヲ於テ些少  
ノ差異アル所以ヲ發見スルヲ以テ初メ實感シタル  
快樂ハ頓ニ窒礙セラレ又電氣力ノ平均ヲ其間ニ收

三



得スル片ハ異常ノ快感ハ為メニ省減シテ恰モ南柯  
 ノ夢一タビ醒メテ又追フベカラザルガ如シ  
 情婚ニハ數バ夫婦ノ電氣質相ヒ共ニ齊等ナル者ア  
 リトス而シテ其質ノ同一ナルガ為メニ大ヒニ纏綿  
 ノ快味ヲ減殺スルノミナラス胚胎器ノ勇勢及ビ其  
 收縮力ノ消亡ヲ招クヲ以テ數バ死胎ナルモノアリ  
 或ハ幸ヒニシテ兒子ヲ産スルアルモ其兒ハ虛弱ニ  
 シテ長壽ヲ保タズ  
 婦人ヘストルヘンドルソシ氏曰ク凡ソ兒子ハ反對  
 ノ質ヲ有セル匹耦ノ間ニ生スルモノトス該説ハ是

レ天理自然ノ定法ニシテ衆人ノ能ク辨知スル所ナ  
 リ夫レ質ノ相反スルモノハ男女ノ間ニ於テ必ず之  
 アルニ非ス人類一般ノ内ニ於ケルモ亦タ質ノ異リ  
 タルアリ又婦妻ノ質良人ノ質ニ等シキモノハ多ク  
 死胎ナルベク或ハ幸ヒニシテ兒子ヲ産スルアルモ  
 其兒ハ虛弱ニシテ一般短命ナリトノ言辭ハ最モ此  
 意ニ注慮セル人ノ點視ニ因テ此説ヲ創起セシモノ  
 ナレバ若シ全ク此理ニ反シテ夫婦ノ質最モ甚シク  
 相異リテ体格等相ヒ等シキモノハ一般ニ兒子ヲ産  
 スルノ衆多ニシテ虛弱夭折ノ患ヒナキヲ知ルベシ



余曾テ佛國巴里府ニ寓シテ醫業ヲ行フノ間其地ニ  
 住居セル某醫師ノ報道ニ依リ眼前左ノ如キ的例ヲ  
 見タルコトアリ同府ノ或ル市街ニ兩匹耦アリテ甲ハ  
 夫妻共ニ膽液質ニシテ乙ハ相共ニ多血質ナリキ然  
 ルニ甲乙共多年一家ニ住テ起卧ヲ共ニシ閨房ヲ一  
 ニスレ氏皆ナ更ニ娠孕スルナシ而シテ此兩匹耦ハ  
 何レ氏兒子ノ生誕ヲ渴望スルニ堪ヘザルヲ以テ居  
 常其石胎ヲ醫セント欲シ百方治術ヲ盡セリト雖氏  
 其效更ラニ顯ハレズ之ニ依テ失望ノ餘遂ニ此兩匹  
 耦ハ互ヒニ奇約ヲ結ビ試ミニ此石胎ヲ治醫センガ  
キタイナヤク

為メ時々其妻ヲ交換セリ然ルニ兩三ヶ月ノ後子果  
 シテ皆ナ良效アリテ月滿チ分娩ノ期ニ至レバ共ニ  
 可憐ノ兒子ヲ舉ルヲ得タリ此的例ハ親ク自カラ實  
 驗ヲ歷タルモノタレハ他人ノ引証セル例ヲ以テ該  
 件ノ解説ト為スヲ煩ハサズシテ夫婦同質ノモノニ  
 兒子ナキ所以ヲ確證スルニ足レリ諸人々相共ニ其  
 婦妻ヲ交換スル等ノ如キ弊更ハ佛國ニ於テ最モ著  
 シトス亞國ハ佛國ニ比スレバ大ヒニ僅少ナリト雖  
 氏尚ホ亞國ノ大都内ニハ時々此弊更ヲ施行スル輩  
 アルヲ傳聞セリ



兒子ヲ得ント欲スルノ念慮ト比枕ノ快ヲ欣慕スル  
 ノ心情ハ結欵セル人ニ於テハ皆ナ一般ニシテ此情  
 慾ナキモノハ僅々數者ニ過キサルナリ故ニ夫婦ノ  
 質即電氣質ノ畧ホ相符合シテ所詮兒子ヲ孕ムヘキ  
 望ミナキカ或ハ合衾ノ快ヲ慕フ情ト共ニ其望ミナ  
 キニ至テ多少ノ不滿ヲ懷キ幾分ノ不快ヲ生スルハ  
 盖シ亦自然ノ理ナリ之ニ依テ相ヒ共ニ無量ノ交社  
 ヲ契約スル輩ニ確保セル情婚ハ心情体上共ニ適合  
 ヲ得ベキ貞操清潔タル朱陳ノ祉幸ヲ舉クル能ハサ  
 ルハ敢テ驚愕スルニ足ラサルナリ而シテ心情体上

共ニ適合ヲ得タルモノハ甚タ尠ナク蓋シ千中ノ一  
 タルベシ

第二、体上婚

体上婚ハ些少心情ノ適合ヲ得タルカ若クハ全ク之  
 ニ關スルナク只体上ノミ能ク配合セル男女ヨリ組  
 成スルモノナリ其配合タルヤ適度ノ娛樂ヲ得タル  
 結欵ト稱スヘキモノニシテ倫敦全府ニ於テ諛類ノ  
 配合ヲ遂クルモノ其數三千百七十五人アリト云フ  
 上文ニ論述セルガ如ク歐洲人民ノ性質ハ亞州ノ諸  
 邦人ヨリ交誼ノ情極メテ浮薄ニシテ篤實ノ風ニ乏

卷之二 編二 六  
 易堂藏版



シキヲ以テ該類ノ配合ヲ親踐セルモノハ平均亞國  
 ヲ多シトス体上婚ノ内ニハ結款ヲ遂クレバ祉幸ヲ  
 享クルモノト衆人ノ想像ヲ置ケル快樂幸福ヲ享ク  
 ルモノ多シ其合衾ハ陰具ニ大小ナク強勢ニシテ能  
 ク闘筭スルト其身体ノ健全ナルトニ從テ一般ニ完  
 備充分ナル快樂ヲ一方若クハ雙方ニ感スルヲアリ  
 夫レ該類ノ配合ニ於ケルヤ夫ハ其妻トノ交情ニ關  
 スル親愛ヲ其家屋ニ發見スルヲ尠ナク夜來ハ必ズ  
 商業ノ務ニ從事シ或ハ政体ノ會議ニ列シ或ハ諸般  
 ノ會話ニ蒞ミ或ハ打波ノ戲ヲ弄翫スル等其為ス所

異同アリト雖到底其妻ト出入ヲ共ニセザル者多  
 シトス又時トシテ其妻ヲ伴フテ騎馬シ或ハ逍遙ス  
 ルモ其口ヲ開キ其唇ヲ飄ヘシテ欣々相ヒ親話スル  
 一ナク平常ノ談話ハ盡ク嚴毅方正ニシテ一面識ノ  
 人ト相ヒ交接スルニ異ナラズ故ニ該類ノ配合ヲ施  
 行セル夫婦ニ就テ其愛着心ノ有無ヲ辨知セント欲  
 セバ只閨裡ノ鴛鴦眠正ニ熟スルノ時ニ於テ纔カニ  
 能ク之ヲ瞭證シ得ベキモノトス而シテ此匹耦ハ社  
 會ノ交際上ニアツテ屢バ行ハル、會合公宴等ニ並  
 坐同侍スル一甚タ稀ナリ或ハ時ニ此等ノ席ニ同



侍スルアルモ其相ヒ周旋拘着セザル<sup>カマイツク</sup>ハ敏捷ノ視<sup>カシコキ</sup>  
 察家直チニ能ク之ヲ看破シ得ルナルベシ<sup>ミラス</sup>諸此匹耦<sup>カシコキ</sup>  
 ノ間ニ避遁シ難キ故障ノ發スルニアラザレハ生涯<sup>サワリ</sup>  
 更ラニ風波ヲ揚揺スルナク平寧無憂ニ一生ノ苦流<sup>コラク</sup>  
 ヲ航下シ朋友ノ交際ニ於テハ必ス互ニ相愛スルノ<sup>マヅハリ</sup>  
 情ヲ顯ハスナキモノニテ良善ノ民慶幸ノ人トシテ<sup>サイハイ</sup>  
 世人ノ尊敬ヲ受クル間ニ於テ只僅カニ其情ヲ存ス<sup>ウヤフビ</sup>  
 夫レ放蕩無頼ノ徒ハ其意志ヲ獎勵シテ數ハ欺訛セ<sup>ハテマ</sup>  
 シメニト欲シ又タ其嗜好ヲ逞スト雖<sup>タマシ</sup>凡此類屬ノモ<sup>カドワカ</sup>  
 ノハ既ニ上文ニ論述シタル徒ノ如ク拐携シ去ル<sup>カドワカ</sup>

能ハサルヘシ而メ不貞ノ妻ハ其密夫ト相抱着スル<sup>マツトコ</sup>  
 ノ際ニ於テ陰夫一身ノ電氣ハ嘗テ馴狎セル<sup>ナレシ</sup>正經<sup>マツタシキ</sup>  
 ル良人ノ電氣ニ同ジカラズシテ此二種電氣ノ間ニ<sup>マツタシキ</sup>  
 存スル差異ヨリ生スル快味ノ不等ナルヲ發見ス又<sup>トカイ</sup>  
 其夫ハ一意不抜ニ宗教ヲ確信スル性質タルカ若<sup>イウシン</sup>  
 ハ大イニ國法ヲ尊重スルノ徒ニ非ルヨリハ多ク之<sup>オモン</sup>  
 ヲ大罪トシテ以テ自カラ非倫ノ所業ト想視思惟ス<sup>ヒトミナシ</sup>  
 ルナシ而シテ其婦ニ非倫ノ所業アルヲ見聞スレバ<sup>オモヒカン</sup>  
 敢テ之ヲ捺胸シ能ハザルガ故ニ此徒ニアツテ踰牆<sup>カケ</sup>  
 相從ノ發顯スル<sup>アラハレ</sup>甚タ稀ナリ是レ淫褻非倫ヲ以テ



舊來相<sup>ハツマンキ</sup>親睦セル知己親友及ヒ聲名ヲ汚スニ至テ  
 シメンニハ夫若クハ妻ノ其密婦密夫ノ間ニ感觸ス  
 ル快樂ハ本然ナル夫婦ノ間ニ享クル快樂ニ超越ス  
 ルニアラズンバ斯ノ如キ非倫ノ所業ヲ行ハズ蓋シ  
 世人ノ時トシテ斯ノ如キ醜行ニ陷ルモノハ獨リ淫  
 情ノタメニ眩惑セラレテ之カ為メニ其本心ヲ驅逐  
 セラレ夫婦ノ間ニアリテハ充分其情慾ヲ飽カシメ  
 難シト雖<sup>イロコ</sup>氏若シ之ヲ他人ニ試ミル<sup>イロコ</sup>ハ必ス飽滿ノ  
 快娛アリト斷然タル確證アルニアラサレハ決シテ  
 此<sup>キチカ</sup>狂癡ノ所業ヲ起ス<sup>セウコ</sup>ナシ故ニ体上ノ婚媾ニアツ

テハ夫婦中孰レノ非倫ニ於テモ輒ク發見シ且ツ婦  
 人ノ非倫ハ永續シ難キヲ以テ休書ヲ交エズシテ相  
 ヒ別離スル<sup>ヒトシ</sup>稀ナリトス然レ<sup>キリシ</sup>氏往々該類ノ配合ヲ  
 施行セル黨中ニ於テハ休書ヲ交付シテ別離スルノ  
 徒ヲ顯出スル<sup>ワタ</sup>トアリ  
 体上ノ婚媾ハ病患若クハ過度ノ房事ニ因テ<sup>イロコト</sup>胚胎器  
 ノ健全ヲ毀損衰弱スルニアラザレハ善ク有身スル  
 モノ多シ此ノ如キ配耦ノ兎ハ一般ニ其軀体ノ強壯  
 ヲ得レ<sup>ヨク</sup>其心志ハ柔弱ニシテ其身体ニ對衡スルヲ  
 得ズ

九 易堂或反



該種ノ婚姻ヲ禁停スルニ嚴正ノ法律ヲ用ルハ策ノ  
 得タルモノニアラス然レモ熟達セルギンミヤクシヨ 検査局ノ良裁  
 ニ據テ婚姻結約ノ許可ヲ得ンガタメニ出頭シタル  
 人々ニ幸セシムルコトアリト殊ニ頗ブル着意ノ善キ  
 夫ヲ得ント欲スル婦ニシテ若シ結款ノ後夫婦ノ愛  
 情ハ宿醉ノ始メテ醒ル如ク其心意漸ク不合ニ及ブ  
 ヘキ徵ヲ頭ハスアレバフカヨイ 検査局ニ於テ必ス之ヲ説諭  
 シ之ヲ誘導シ之ヲ鼓舞シテ終ニ痴呆ナル條約ヲ解  
 離セント欲スルノ念慮ヲ發スルニ至ラシムヘキナ  
 リ総テ各社會中ノ幾何淫婦ヲシテ真ノ愚漢ト配合

セシメバ其夫ハ必ス急情ニ流レ其妻ハ必ズ寂鬱ニ  
 沈ンテ悶然ノ状態ニ陥リ夥ク佳耦ヲ得サル匹耦ノ  
 輩醸出セザルベカラズ豈不幸ノ至ナラスヤドクト  
 ル、ライアン氏ナルモノ此等ニ於ケル結婚ニ注目シ  
 テ以テ下條ノ語ヲ談セリ夫レオコタリ 瑕疵、驕傲、我意ノ性質  
 ト痴呆等ハ各々結婚同住ノ間ニ生スルモノニシテ  
 凡ソ世間ニ對シテハ品行容姿ヲ飾リ意ヲ撓メテ百  
 事ヲ施行スト雖モ家屋ニアリテハ大約其販装ヲ脱  
 却シテ其真像ヲ現出シ夫ヤ妻ヤ各、其固有ノ本心ヲ  
 抑壓鎮撫スル能ハサルガ故ニ妻ハ我意ニシテ傲慢  
 走ル必事二編二九



短氣ニシテ頑陋ナル夫ヨリ困苦ヲ受ケ若クハ英敏ナル夫ノ痴愚ニシテ救麥ヲ辨セズ頑固ニシテ且ツ傲慢ナル妻ニ對シ抑怒忍耐スルモノ幾何ナルヲ知ル能ハズ蓋シ男女ノ間ニアリテ相ヒ共ニ其歡心ト感覺ト意見トヲ兼備并有スルハ結婚セル人ニ於テ大イニ難シトスル所ナリ

前文ニ論述セル一件ハ眞實ニシテ虚妄ナラザル正説ニシテ極テ能ク道理ヲ盡スモノト謂フベシ記者又曰ク相ヒ互ニ其歡心等ヲ得ルハ夫婦共ニ為シ得難キ所ニシテ夫婦互ニ其歡心等ヲ得ヘキ確爾ノ法

方ハ只適度ニ情婚ヲ以テ結婚スルヲ良善トス情婚ヲ以テ結婚スレバ意思感覺ノ相ヒ共ニ等シキト自然ニシテ歡心ヲ得ント欲スルガ如キ不熟ノ事業ハ敢テ之ヲ試察スルヲ要セス

第三 背着婚

本條ハ心情若クハ体上ノ適合ニ關係セスシテ結婚セル婚姻ヲ論辨スルモノニシテ開化文明ノ世界モ該種ノ結婚アルヤ甚タ多シドクトルライアン氏曰ク夫婦ノ結約ニ於テ世上衆人ノ意見ヲ之ニ寓スルハ一般詐偽我慾ニシテ且ツ健全勢力アル兒子ヲ媿

ハ一般詐偽我慾ニシテ且ツ健全勢力アル兒子ヲ媿



産スルニ最モ多害ノモノタリト即チ該種ノ婚姻ニ  
 依テ媿産シタル児ノ性質ハ名望富貴位階官爵利益  
 ヲ欲シ不羈自立ト建築ヲ愛シ父母ノ限禁ヲ嫌ヒ肆  
 ニ忿怒シ親族ト交際ヲ結ブヲ欲セズ婦妻ヲ蔑視シ  
 緊要ナル件ヲ賤ミ己ノ責任ヲ盡サズ法度ニ倣ハズ  
 且ツ純清潔白ト善徳ヲ愛スル人間固有ノ本心アル  
 者甚タ稀ナリ

該種中ニハ老年ノ夫ト若年ノ妻老年ノ妻ト若年ノ  
 夫トノ結婚ヲ多ク有スルモノトス余嘗テ三十五歳  
 ノ男子ニシテ五十五歳若クハ六十歳ノ婦人ヲ其妻

方ハ只適度ニ情婚ヲ以テ結婚スルヲ良善トス情婚  
 ヲ以テ結婚スレバ意思感覺ノ相ヒ共ニ等シキト自  
 然ニシテ歡心ヲ得ント欲スルガ如キ不熟ノ事業ハ  
 敢テ之ヲ試察スルヲ要セス

第三背着婚

本條ハ心情若クハ体上ノ適合ニ關係セズシテ結約  
 セル婚姻ヲ論辨スルモノニシテ開化文明ノ世界モ  
 該種ノ結婚アルヤ甚タ多シドクトルライアン氏曰  
 ク夫婦ノ結約ニ於テ世上衆人ノ意見ヲ之ニ寓スル  
 ハ一般詐偽我慾ニシテ且ツ健全勢力アル児子ヲ媿

必解二編一  
 十一  
 岩陽堂藏版



産スルニ最モ多害ノモノタリト即チ該種ノ婚姻ニ  
依テ媿産シタル児ノ性質ハ名望富貴位階官爵利益  
ヲ欲シ不羈自立ト建築ヲ愛シ父母ノ限禁ヲ嫌ヒ肆  
ニ忿怒シ親族ト交際ヲ結ブヲ欲セズ婦妻ヲ蔑視シ  
緊要ナル件ヲ賤ミ己ノ責任ヲ盡サズ法度ニ倣ハス  
且ツ純清潔白ト善徳ヲ愛スル人間固有ノ本心アル  
者甚タ稀ナリ

該種中ニハ老年ノ夫ト若年ノ妻老年ノ妻ト若年ノ  
夫トノ結婚ヲ多ク有スルモノトス余嘗テ三十五歳  
ノ男子ニシテ五十五歳若クハ六十歳ノ婦人ヲ其妻

ト為セルモノアルヲ知ル此夫婦ハ一棟ノ下ニ住ミ  
數年ノ間暴怒論諍休ム時ナク心情不合ノ極遂ニ若  
年ノ夫ハ其妻ト寢食ヲ別ニシ起居ヲ同フセザルニ  
至レリ其後チ兩者共ニ其論諍ヲ法廷ニ委セリ而シ  
テ只不適ノ匹耦ノミ法官ノ裁決ヲ仰ヒテ相當ノ處  
刑ニ係ルニアラス彼此ノ友人モ亦之ヲ連累ノ厄ニ  
係リ法廷上ニ於テ相ヒ論諍スルニ至レリ是ニ於テ  
カ夫ノ健全ニシテ且ツ嘗テ賞譽ヲ得タル性質モ忽  
諸トシテ地ニ落ち其所有ノ財貨モ皆テ悉ク代言人  
ト法官ノタメニ翕取セラレ又タ其衆友ノ名望モ此



匹耦が後日ニ潰敗セルモチク亂行放恣ノタメニ甚ダ我害コトナヒ汚辱セラレタリ

良人ト成ルヘキ人ノ家ト結婚スル婦人或ハ失脚シ

テ心情若クハ体上ノ適合ニ變異スルアリト雖所ノ如

キハ甚ク稀ナリ余ハ嘗テ良人若クハ妻ト成ルヘキ

入ノ家ト結欵シテ風波ヲ生ジタル輩數人ヲ知レリ

夫レ一家ノ不睦ハ實ニ耻辱ノ第一ナルノミナラズ

之ガ為メニ殆ント日々ノ葛藤ヲ生ジテ朝夕ニ憤怒

ノ聲ヲ聞キ夕ヘニ喧争ノ語ヲ發シ漸ク不幸ノ婦妻

ヲシテ愁容病顔又前日ノ狀貌ナキニ至ラシム醫士

ハ之ヲ見テ其若辛ニ因テ然ル所以ヲ知ルト雖所世

人ハ決シテ其原由ヲ辨知スルアタハザルナリ

夫レ嫁娶ノ契約ヲ結ブニ當テ富貴利達ノタメニ煽

惑セララル、人ハ協合親睦スル匹耦トナリ幸福安寧

ヲ得ルヲ甚ク罕ナルモノニシテ時トシテ男子ハ富

貴利達ヲ私センガタメニ更ラニ一点ノ愛歎欣慕ス

ヘキ所ナキ婦人ト姻婭ヲ結ブアリエル、エンヌ、キ

トエル君嘗テ此實ヲ談ジテ謂ヘルアリ云クオ

リーン府ノエム氏同府ノ一婦人ト結婚シテ之ヲ其

家ニ邀ヘリ同氏ノ初メ思考セシ所ノ心意ハ只那ノ



婦人ノ阿爺ハ巨萬ノ富ヲ有スル人ナリト聞ケバ後來  
 我カ為メニ<sup>テ、コ</sup>夥多ノ利益ヲ來スベキノ一件ニアルヲ  
 以テ其婚ヲ成スノ時ニ當テハ揚々トシテ頗ル自得  
 ノ色アリタリ然ルニ結婚ノ後數閱月ニシテ其外舅  
 ハ不時ノ損厄ニ係リ終ニ其家産ヲ没落シタリトノ  
 凶報アリ是ニ於テカエム氏ハ素志ノ的中セザルヲ  
 怒リ直チニ其妻ニ休書ヲ授ケテ阿爺ノ家ニ還ラシ  
 メシニ此婦ノ阿爺ハ日ナラズシテ再ビ其家産ヲ興  
 起シ其榮昌ヲ致ス<sup>サカヘ</sup>ト遠ク前日ニ超ユルニ至レリ此  
 時彼ノ狡猾無心ナル舊婿ハ復々此婦ノ門ヲ叩キ再

ヒ舊盟ヲ結バン<sup>ルキナカヒ</sup>トテ乞フト雖氏婦人ハ敢テ之ヲ肯  
 ゼス阿爺モ亦タ其請ヲ免サ、リシトナリ  
 婦人ハ數バ愛慕ノ情ナキ豪富ノ縉紳ト婚スルヲア  
 リ其心ニ好マサル良人ト寢食ヲ共ニスルハ甚ダ困  
 難ニシテ聊カ快娛ナシト雖氏唯々奢侈ニシテ諸夏  
 萬端其意ノ欲スル所ヲ恣ニスルヲ得且ツ金囊ハ常  
 ニ春暖ノ季侯ヲ保ツガ故ニ苦難安逸能ク相ヒ償フ  
 ニ足ルヲ考フルニアリ然レ氏其夫ト交接スルハ恰  
 モ嚴師ノ嚴命ニ違背スル能ハサルガ如ク意ヲ撓メ  
 テ其示令ニ從フノ思ヲナセリ



金貨ハウツクシキ嬋妍タル衆多ノ佳人ヲ掠奪シ且ツ人ヲシテ  
 至賤ノイヤシキ奴隸トナラシムヘキモノナリ又華麗ナル衣ウツクシキ  
 裳ハ人ヲシテ其心志ヲ移サシムルモノニシテ富人  
 ノ言ヲ發スルヤ縱令ルイ嘖キラウ覺スヘキ莫ト雖凡充分其甘  
 言ニ眩惑セラレテ酷タマサレ苦堪ヘ難ク困厄忍ビ難キノ域  
 ニ至ルマテホシヤリ茫乎トシテ其心醉ウツヲ醒覺スル能ハザル  
 者比々皆是レナリ而シテ又相ヒ愛スルノ情ナキ結  
 婚ニ於ケル囚人タリ此ノ如ク愛戀ノ情ナキ婦妻ハ  
 大約唯其聲名ノ美ナルノミニシテ其實ハ娼婦ト異  
 ナラズ蓋シ僅カニ地位ノ同ジカラザルアルノミ何

ントナレバ色ヲ鬻ク婦人ハ猶ホ時トシテ其愛慕ス  
 ルモノト相ヒ抱タキアワ着スルノ快娛ヲ享クルト雖凡該類  
 ノ妻ハ居常已ムヲ得ズシテ其厭キライ悪セル男子ノ擁抱  
 ニ從ハザルヲ得ザレバナリ抑モ此ナラメ纒ナラメニ係ル婦人  
 ハ特リ富貴ノニ結婚上ノ娛樂タルモノニシテ其他  
 更ラニ一物モ快樂タノシミヲ與フルモノナシ  
 富ヲ需ムルノ産業ハ人ヲシテ吝嗇トナラシムル者  
 ニシテ又富人ハ其妻ニ輕キ金囊ヲ所持セシムル  
 多シ夫レ富ノスウチカラ翁カニ眩惑セラレ愛戀ノ心情ナキ人  
 ト結婚スル婦人ハ其夫ノ吝嗇ト醜シクキ惡ヲ見ル十五殊ニ

造化秘事二編 卷一 新陽堂藏版



最モ刻苦辛艱ナリト云フ此一欸ハ金満家ノ夫ニ婚  
 姻セル婦人ノ數バ實驗スル所ナリ左ニ一婦人ニツ  
 コルス氏ノ嘗テ談話セル該種ノ愍然ナル的例ヲ舉  
 ゲテ本欸ノ虚ナラザルヲ證ス  
 ニツコルス氏ノ言ニ云ク今ヲ距ル十年以前余ノ友  
 ニ最モ貞操温順ノ一小婦某氏アリ余ハ未タ某氏ノ  
 如ク甚タ實直ニシテ心操ノ純良ナル婦人ヲ見タル  
 一ナシ其容貌ハ平常清潔信實ヲ顯出シテ其心神至  
 テ快爽ナルガ如シ元來某氏ハ僻邑ニ住居シ極メテ  
 貧窶ニ生活セル一寡婦ノ女ナリシガ才色ノ兼備ヒ

ルガ為メニ當時富貴ニシテ且ツ教育アル一男子ノ  
 妻ニ聘セラレ艷華美麗ヲ極メタル大厦高樓ニ右居  
 シ都人ノ交際ニ與カルヲ得タリ初メ某氏ノ結欸ス  
 ルヤ其年齡甚ダ若クシテ舊里ノ親戚朋友ヲ追慕ス  
 ルノ情ハ日夜止ム時ナシト雖氏其夫ノタメニ慈母  
 及ヒ朋友ノ間ヲ隔絶セラレテ又之ニ接スルヲ得ザ  
 ルニ至レリ而シテ其由來ヲ尋ヌルニ某氏ハ二十五  
 錢タリトモ其朋友若クハ他人ニ施與スルカノ恐レ  
 アルニ由テ親子朋友ノ交ヲ絶タシムルナリト豈ニ  
 憫然ト云ハザルベケンヤ偕テ夫ハ某氏ヲ移シテ佳



麗ノ家ニ住居セシムルト雖氏其生活ヲ營ム<sub>マ</sub>一貧困  
 ニシテ<sub>フクク</sub>缺乏多キハ自カラ獨リ知ルト其左右ニ侍シ  
 テ實視スルヲ得ルノ徒ニアラザレハ一人モ之ヲ知  
 覺スル者ナシ元來其夫ハ已ニ接遇スル輩ニ<sub>ツキアツク</sub>浮薄ナ  
 ルニアラズ又無學無知ニシテ交情ノ何物タルヲ辨  
 ゼザルニアラズ且ツ不快ナル人ニモアラズ然レ氏  
 吝嗇ノ陋僻ハ終生其身ニ纏綿スル所ノ弊習ニシテ  
 其妻トナリシ某氏ハ萬<sub>セウカイ</sub>夏ニ就キ失望セル夏ノミナ  
 リキ又某氏ノ愛慕セル慈母ハ老衰シテ坐スル力ナ  
 キニ至ルマテ<sub>ナリ</sub>賃縫ヲ以テ其生業トシ尚ホ坐スル能

ハズシテ衾中ニ卧スルノ困苦ニ陷ルモ亦猶ホ其業  
 ヲ廢止スルヲ得サルノミナラズ其側ニ一僕一婢ノ  
 侍坐スルナク<sub>ヤメル</sub>鬱々<sub>キウク</sub>獨卧シテ無聊ニ其餘日ヲ送り親  
 愛セル女子ヨリ毫モ<sub>ハシヘル</sub>音信ノ贈遺ナキヲ怨恨シタリ  
 某氏ノ其母ニ無音ナリシハ他ナシ其夫ノ吝嗇ト<sub>ウラミ</sub>猜  
 疑トニ由リ郵便料ダニ恣マ<sub>オホツレキ</sub>ニスル能ハサルヲ以  
 テノ故ナリ初メ某氏ハ郷里ニ於テ其慈母ヲ養フノ  
 方法ヲ設ルカ若クハ之ヲ迎エテ居住ヲ共ニセント  
 欲スルノ意ヲ以テ結婚セシナレバ其失望實ニ如何  
 ソヤ<sub>エンクミ</sub>



諸婦ハ陰ニ胸臆ヲ悩マシ身ニ苦辛ヲ帶ヒ遂ニ健全  
 ヲ戕フニ至ル嗚呼其受クル所ノ苦辛ハ幾何ソヤ他  
 人ヨリ之ヲ察スルモ亦猶ホ震慄ニ堪エザルベシ某氏  
 ハ其慈母ノ倚ル所ナクシテ貧窶ニ迫ルヲ思察シテ  
 居常苦心ノ上ニ相ヒ續テ三児ヲ舉ケ之ヨリ或ハ流  
 産ニ逢ヒ或ハ數バ墮胎ヲ行ヒ漸ク疲衰スルニ由テ  
 醫ニ就キ治療センコトヲ其夫ニ請ヘ氏頑然トシテ毫  
 モ其請ヒヲ許ルサズ爾後六年間一日モ病床ヲ離ル  
 ハコトナク其容態殆ント死スルガ如キニ至ル若シ曩  
 キニ某氏ヲシテ其夫ト離別セシメバ必ず其病症ノ瘉  
 ハナレ

ルアラシニ某氏ハ墮胎ヲ行フコト六回ナルノミナラ  
 ス心体ヲ使役スルコト正當ナラザルカタメニ病患ヲ  
 起シ且ツ日々時々ノ苦辛ト子宮出血ノ停止セザル  
 トニ由テ遂ニ鬼籍ニ入ルノ微症ニシテ初メ無比ノ  
 美麗モ變シテ蒼顔鬼ノ嫌悪スベキガ如ク初メ活潑  
 ニシテ快通セル氣質モ時々發狂シテ癲者ト成リ又  
 茫然トシテ痴呆ノ如ク更ラニ人事ヲ辨ゼサルガ如  
 キニ至レリト  
 之ニ依テ某氏ノ朋友ハ深ク之ヲ哀憐シテ某氏ノタ  
 メニ百方カラ盡シ其夫ニ説テ醫家ニ治療ヲ委託セ



シメントセシカハ其惡僻ハ依然トシテ解ケズ更ラ  
 ニ之ヲ許ササルノミナラス自ラ之ヲ認見シ一点ノ  
 苦惱ナシトシテ又之ニ管セス十二年間ノ苦痛ヲ受  
 ルニ任セ擲棄シテ之ヲ顧ミサルニ由リ人間ノ精氣  
 ハ漸ク消削セラレ其妻ヲ見ル犬馬家具ニ之レ如カ  
 ザルニ至リ遂ニ此情態ニ依テ瞑目セリ若シ某氏ヲ  
 シテ長命ニシテ永ク世上ニ生活セシメバ恰モ馬盜  
 若クハ放火賊ヲ罰スルガ如ク之ヲ苦ムルヲアルベ  
 シ而シテ其顔貌ハ實ニ其妻ニ於テ怖ルベク惡ムベ  
 キナリ今殘忍ナル諛夫ノ某氏ヲ馭スル正ニ妓ヲ馭

スルガ如ク非倫ナルヲ見レバ其妓ヲ馭スルハ必ズ  
 之ヨリ酷シキ者アルベシ該夫ノ其妻ヲ馭スルハ妓  
 ヲ馭スルト大イニ其狀態ヲ異ニスルモ不幸ナル某  
 氏ハ遂ニ其夫ノ犠牲ニ供セラレシニ等シ夫レ該夫  
 ハ元來富貴ニシテ尊重スヘキ人物ニシテ世上交際  
 ニ關スル性質ト其婦妻等ニ接スル眞實ノ性質トハ  
 全ク反對シテ眞ノ良性情ナキ人倫ノ毀戕家タリ又唯  
 タ其妻ニ對シテハ交感ノ情ニ乏シク業務金貨飲食  
 及ヒ家莫ニ關スル間其艷美ナル細君ハ常ニ病苦ニ  
 沈ミ其心情實ニ憫ムヘクシテ且ツ弄瀆スベキモノ



ニアラサル所以ヲ會得スト雖凡自己ノ意ニ任セテ  
 恣ニ其妻ヲ奴使セリ  
 父母親戚ノ歡心ヲ得テ結婚セントスレハ心情若ク  
 ハ体上ノ適合ヲ得ルヲ甚ダ稀ナリ夫レ父母ハ其兒  
 ノ愛慕スル意ナキモノヲ取り強テ結婚ヲ勸メ之ガ  
 タメニ數バ禍害ヲ醸出スルヲ實ニ幾何ナルヲ知ラ  
 ズ若シ幼童ノ師父タルモノヲシテ其無用ノ諸學ニ  
 カヲ費ス所ノ者ヲ以テ能ク生理學、心學ノ教ニ著意  
 セシメバ壯年ニ至リ匹耦ヲ撰ブニ當テ大イニ之ガ  
 補助トナルヘシ然レ凡元來彼ヲ擯ケテ此ヲ撰フハ

一般耦ト不耦ニ關スルナク自我ノ心志ヨリ生スル  
 モノナリ  
 嘗テシンシンナチ一府中ニ艷色ト學識トヲ以テ當  
 時ニ鳴タル一美婦アリ一日余カ舎ニ過キリ其軀體  
 ノ急ニ疲衰セシ所以ヲ訊問セリ余乃チ之ヲ診スル  
 ニ其袖經系ヲ損傷スルヲ頗ブル酷シク動モスレバ  
 癡狂ニ至ラントスルノ徵候アルヲ發見ス是レ必ズ  
 恒ニ絶エズ心神ヲ惱亂スルヨリ醸發シタルヲ知  
 ル是ニ於テカ精細ニ其由來ヲ訊問スルニ果シテ余  
 ガ思察セシ所ノ如シ夫レ此婦人ハ朋友ノタメニ惑



誘セラレレ之カ為メニ不快ノ婚姻ヲ結ベルノ徒ニシ  
 テ其説述スル所ニ依リ推シテ心情体上共ニ其適合  
 ヲ得ザルヲ明知スベシ何ントナレバ此婦人ハ其良  
 人ト室ヲ同フシ食ヲ共ニスルヲ九年ノ久シキニ至  
 ル迄一兒子ヲ舉クルヲナカリシト謂フヲ以テ余ハ  
 斷ジテ其夫婦ノ交リニ於テ謹少ノ快娛ヲモ感覺セ  
 ザルヲ知了セリ此婦ハ從來宗教ヲ僻信スル性質ナ  
 ルニ其夫ハ放蕩無頼ノ徒ニシテ觸怒スヘキ些少ノ  
 原因ナキニ酷ク嚇リ虐シテ屢バ其家人ヲ驚駭怖恐  
 セシムコトアリ且ツ此夫ハ素ヨリ衆人ノ夕メニ尊敬

セラレタル富商タルニ其妻ニハ一圓ノ貨幣タモ附  
 與スルヲナクシテ妻ト兎トハ殆ンド衣服ニ缺乏シ  
 之ガ為メニ大イニ苦難ヲ受ケリト聞ク若シ此婦人  
 ラシテ其親戚ノ家ニ就キテ養育ヲ受クベキノ好機  
 會ヲ得セシノバ此婦人ハ必ズ其夫ノ家ヲ去ルヘキ  
 ニ愍ムベシ斯ノ如キ親戚ナキニ因テ其健康漸ク疲  
 衰ニ趣キ終ニ自カラ其一身ヲ保チ難キニ至ルノ思  
 慮ヲ懐クト雖厄之ヲ如何ントモスベキ策ナク目今  
 尚ホ其夫家纒綫ノ内ニアリト雖他人ヲシテ此際ノ  
 不幸ヲ知了セシメ為メニ廣ク諸人ノ心神ヲ苦惱セ



シムルヨリハ寧口深ク之ヲ秘シテ此苦厄ヲ一身ニ  
 享受スルノ勝レルニ如カサルナリト然リ而シテ余  
 ハ偶然困苦ニ逢ヘル状態ヲ聞知セル一人ニシテ其  
 辛苦ヲ享クル愁談哀語ヲ聞クノ間ダ主客ノ涕淚ハ  
 恰モ源泉ノ停止スルナキガ如ク彼此相共ニ其襟袖  
 ヲ濕スニ至レリ此婦人ノ如キ病症ハ余ガ嘗テ實視  
 スル所ノ數千人中ニ於テ猶ホ至酷至困ト稱スベキ  
 モノニ非ズシテ又余カ實際モ多ク實際上ニ通涉セ  
 ル良醫ノ所見ト分毫ノ異ナルアルナク普天下ノ人  
 間社會ハ悉ク背着婚ノ徒ヲ以テ充實セラレテ其感

覺享受セル憂苦ヨリ終ニ貴重ノ健康ヲ戕害スルニ  
 至レリ

詩人ミルトン氏ノ初婚ハ背著ノ姻婭ナリキ令同氏  
 ノ事歴ト其記載セル書中ヨリ抄出シテ之ヲ左ニ畧  
 記セントス

ミルトン氏ハ三十五歳ノ時オツクスホルトサイル  
 ノ鎮臺士官ホーエル氏ノ女メリート姻婭ノ約ヲ結  
 ビ其後一ヶ月餘ヲ經テ此婦ヲ家ニ邀ヘテ夫婦同住  
 ノ快娛ヲ得ンヲ企望シタリ然レテ飲食ノ剩多ナ  
 ラサルト過烈ノ勉強ト門徒ノ群集シテ雜沓ナル家



ハ活潑ニシテ少艾ナル騎兵ノ女ニ適セス元來此婦  
 人ハ夫家ノ交際ト甚タ相異リタル社會ノ間ニ生長  
 シ其居ヲ大厦ニ占メ其快樂ヲ隨意ニ行ヒ平生親睦  
 交遊スル所ノ朋友ハ皆同心共慮ノ者タリシ一結婚  
 ノ後ハ其夫ノ命ニ依テ業ヲ究理學士ノ門ニ兼ケ該  
 學科ニ從事スル一ヶ月ニシテ忽チ其夫ニ對シテ  
 暑中休暇ヨリ「ミカエルマス」九月廿九日迄其父家ニ  
 歸寧セン「ヲ懇願シ遂ニ其許河ヲ得タリ然ルニ暑  
 中ノ休暇已ニ過キ「ミカエルマス」ノ期遠ニアラザル  
 モ婦人ハ更ラニ其父家ノ辱遇ト快娛多キトヲ拋棄

シテ矩ノ嚴然家政ノ肅然タル方正勉強ノ詩學士  
 二接近待坐スルノ意ナキガ故ニ遅々シテ終ニ其夫  
 家ニ歸ラザリシト  
 是ニ於テミルトン氏ハ數バ書ヲ贈リテ其事由ヲ訊  
 問スレバ更ラニ一片ノ酬詞ナク又人ヲシテ其歸期  
 フ促サシムルニ事ヲ左右ニ託シ敢テ之ヲ肯ンゼズ  
 乃チ直チニ不貞不順ノ罪狀ヲ列シテ其婦ニ休書ヲ  
 與ヘ且ツ氏ハ其品行ノ正經ニシテ道理ニ背乖セザ  
 ルヲ保證センガ為メニ離縁ノ教則書ナルモノヲ  
 著述シテ公然之ヲ刊行セリ



儲テミルトン氏ノ説述セル書中ノ大意ヲ斟酌シテ  
 之ヲ畧記スルニ曰ク今日世上ヲ回顧スルニ人多ク  
 大膽ナルコトニ慣習シ放恣ニ生活スル黨輩中ノ最ナ  
 ルモノハ其比耦ヲ得ルコト最モ良シ余ハ數バ心情体  
 上ノ適合ハ博徒ト其妻トノ間ニアリトシ又名聲ア  
 リテ性質淳美ナル輩ヨリハ却テ虛名ノ赫然タル輩  
 ニ飯スルヲ考察セリ例ヘバ眇目ノトンプソン氏鳩  
 嘴ノホールル氏ハ最モ信據スベキ良人ニシテ且ツ厚  
 情ノ父ナリト評セラレタリ彼ノトンプソン氏ノ自  
 盡スル前ニ當リ其妻ニ郵寄スル音書ノ如ク愛情深

クシテ感歎スベキ文辭ハ普天下ノ良人タルモノハ  
 書中未ダ曾テ之ニ及ブモノアラザルナリ  
 惡人ノ妻ハ罪科ノタメニ禁錮セラレタル良人ニ戀  
 着スルノ切實ナルハ亦タ嘗テミルトン氏ノ記スル  
 所ニ符合ス夫レ上等社會ニ列シテ諸人ノ恭敬ヲ受  
 ケタル男子ノ細君ハ其良人罪アリテ長ク獄中ニ繫  
 カルハアレハ其間ヲ以テ不耦ナル婚姻ノ奴勢ヲ免  
 カルヘキ天授ノ良時機ナリトスルモノ甚々多シ  
 儲テミルトン氏ハ恣ニ離縁スルコトヲ抗論シ余モ  
 亦タ其説ニ左袒セリ然レ氏余ハ殊ニ心情ト体上ト



ノ適合ニ關スル人ヲシテ相配合セシメニハ生理  
 ト心學トヲ熟知スルモノ、注意ヲ借リ獨妻ノ邀  
 ル家ノ前門ト後門トヲ警衛セシムルニ如カス斯ノ  
 如キ智巧ナル繻縫ニ因ル時ハ背着婚ハ必ズ其跡ヲ  
 絶チ人間ノ祉幸ト永壽ハ無量ニ増殖スルヲアラン  
ユキトキタ ナカウド ナカイキ カキリナク マス

第二章

踰牆スル所以ノ理ヲ論ス

牆ヲ踰エテ相ヒ從フハ上等下等ト共ニ往々之アル  
 一ナリ合衆國ニテハ一ケ年ノ内ニ相ヒ携ヘテ逃七  
 スルモノ五百人ニ上レリ而シテ人常ニ之ヲ稱シテ  
カケオチ

人間ノ邪曲ナリトスレ氏余ハ之ヲ邪曲ニ飯セズシ  
 テ無知蒙昧ノ以テ然ラシムル所トス夫レ我カ公立  
 學校ニテハ良キ歴史家良キ數學者良キ文法學者良  
 キ地理學士良キ法律學士良キ宰相ト好良ナラサル  
 軒岐氏トヲ陶造スト雖氏更ラニ生理學士若クハ心  
 學者ヲ作為スルヲナク又父母タルモノハ斯ク世人  
 一般ノ研窮スル所ノ教導ニ偏倚シ其子ニ生理心學  
 ヲ教フルモノ甚タ少シ故ニ余ハ此貴重ナル生理ト  
 心學トノ二科ニ暗キ所以ヲ論セリ之ニ依テ婚姻ニ  
 於テ体上ト心情トノ適合其當ヲ失ヒ其法ニ背クハ



則チ是レ踰牆相ヒ提携シテ出走スルノ根源ナリ抑  
 モ男女婚姻適合ノ法ハ恰モ物質ノ結合ニ於ケル親  
 和ノ法ト相ヒ同シキモノナリコムストシク氏ノ曰  
 ク今日實視スル所ニ據レバ人ハ相ヒ互ニ親和ノ力  
 フ具フ即チ一定ノ時機ニ投シテ互ニ相ヒ配スレバ  
 共ニ結合シテ曩キニ配合セル兩物ト多少差異アル  
 第二物ヲ釀生ス又之ト同等ノ方法ヲ以テ他ノ兩物ヲ  
 配スレバ互ニ相ヒ抗抵スベキヲ以テ彼此結合シテ  
 新タニ第三物ヲ造成スル能ハス今此兩物結合スル  
 下他物ノ合和ヲ借ラズシテ單獨ニ混入スル片ハ初

田ニ於ル彼此ノ結合ハ其相ヒ保有スルノ引カヨリ  
 モ一層彼此中ノ一物ニ至強ノ引カアル他物即チ第  
 三物ノ其間ニ投入スルアレバ必ズタメニ壊破サル  
 一アルベシ  
 化學ニ於ケル親和ノ法ヲ以テ心情ト体上ノ適合法  
 ヲ説明センニ實視ト學問ノ教トニテ或ル一定ノ時  
 機ニ當リ引カ即チ親和カヲ具ヘタル男子ト婦人ト  
 ヲ相ヒ配スレバ甲乙鉄々連合シテ夫婦ト名クルモ  
 ノヲ造成スルヲ知ル又四リニ男女ヲ相配スレバ  
 油ト水ノ如ク二類互ニ相ヒ抗抵スルモノアリ然レ



トモ些少ノ金粉ヲ其表面ニ塗抹スレバ亦之ヲ連合  
 セシムルニ難カラズシテ恰モ水ト油ニ滷汁塩ヲ加  
 ヘテ相和合セシメ得ルニ外ナラズ又充分適合セル  
 男女ハ合着スヘクシテ此初メ相合スルモノハ其夫  
 婦互ニ享有セル心情ト体上ノ引カヨリモ夫婦中ノ  
 一方ニ對シテ一層至強ノ引カヲ有スル第三物ノ其  
 中間ニ投入スルアレバ其間ダハ必ズ破壊セララルヘ  
 キコトヲ知ル  
 化學ニ於テ亞兒哥爾ハ樹膠龍腦ト縁組ヲ成スヘク  
 シク其結合物ヲ龍腦精ト名ツク然レトモ此婚姻ニ

注ダニ數升ノ水ヲ以テスル片ハ亞兒哥爾ハ直チニ  
 水ト共ニ飛散シ只龍腦ヲ玻璃内ニ殘留セシメテ  
 夫トセリ人類モ亦タ大イニ此理ニ等シキモノアリ  
 踰堵ハ第一、一般結款ニ於テ更ラニ心情ト体上トノ  
 適合法ニ注意スルナキニ依テ起生シ第二、男子若ク  
 ハ婦人ノ心情カ又ハ体上ニ就キ一層至強ノ引カア  
 ル人ヲ見出スニ由テ起生ス例ハ甲氏ハ膽液質ニ  
 シテ貪慾甚シク慈悲心薄ク思慮淺ク兼テ才幹藝能  
 ニ乏キ男子ニシテ乙氏ト結款スルニ此婦人モ亦タ  
 膽液質ニシテ其夫ト同質ナレバ性來貪慾少ナク思



慮深ク慈悲心厚ク兼テ才能ニ富ムノ人ナラシムバ  
 其氣質ノ相ヒ同シカラサルニ因テ交情ノ快娛ヲ破  
 壊スルハ勿論又其軀体ノ構整等一ナルヲ以テ夜間  
 ノ交款ニ於テ彼此充分ノ歡ヲ取ル能ハズ斯ノ如  
 キ一數年若クハ數ヶ月ノ後偶マ多血粘液質ニシテ  
 思慮慈悲ノ良心共ニ深厚ニシテ英敏多能ナル一男  
 子丙氏アリ此家ニ出入セリ然ルニ丙氏ハ甲氏ノ妻  
 ヲ見テ甚ダ愛慕スベキ婦人トシ甲氏ノ妻モ亦丙氏  
 ヲ見テ充分戀々ノ情ヲ發シ居常其心神ヲ惱亂シテ  
 漸ク痴情ニ昏迷スルニ至ル是ニ於テカ丙氏ハ此深  
 意ニ恍惚トシテ終ニ甲氏ノ妻ト相ヒ携ヘテ出奔セ  
 シハ實ニ自然ノ理ニシテ止ムベカラザルノ情事ト  
 謂ベシ是レ龍腦精内ノ亜兒哥爾諛液中ニ包有セル  
 水ト合シ龍腦ヲシテ獨リ自カラ其一身ヲ守護セシ  
 ムルト同一ノ理ナルモノトス  
 今一事ヲ仮リテ心情ノ適合ヲ示セル情況ヲ説述セ  
 ン茲ニミストルスマルトト稱スル男子アリ此人  
 多血質ニシテ交際上ニ巧達ヲ得タル英才多能ナル  
 縉紳家タルガ之ト同質ニテ氣質モ亦同ジキミセス  
 プリムト婚姻ヲ結フニ夫婦ノ交ニ於テハ充分ノ幸

意ニ恍惚トシテ終ニ甲氏ノ妻ト相ヒ携ヘテ出奔セ  
 シハ實ニ自然ノ理ニシテ止ムベカラザルノ情事ト  
 謂ベシ是レ龍腦精内ノ亜兒哥爾諛液中ニ包有セル  
 水ト合シ龍腦ヲシテ獨リ自カラ其一身ヲ守護セシ  
 ムルト同一ノ理ナルモノトス  
 今一事ヲ仮リテ心情ノ適合ヲ示セル情況ヲ説述セ  
 ン茲ニミストルスマルトト稱スル男子アリ此人  
 多血質ニシテ交際上ニ巧達ヲ得タル英才多能ナル  
 縉紳家タルガ之ト同質ニテ氣質モ亦同ジキミセス  
 プリムト婚姻ヲ結フニ夫婦ノ交ニ於テハ充分ノ幸



福アリト雖其交合ニ於テハ常ニ輕微ノ快娛ヲ感ズルノミナリキ何ントナレバ其質ノ同シキニ依テ其電氣質彼此互ニ相ヒ均一ナルヲ以テノ故ナリプリムハ其夫スマルトニ近觸スルモ毫モ磁氣ノ妙感アラズ又スマルトハ其婦プリムニ直接スルモ唯々真愛ノ外一モ至妙ノ娛樂ヲ感覺スルヲナシ是レ共ニ其体上ノ關係ニ於テ陽ニ過キ或ハ陰ニ過クル所以ニ由ル他日ニストルウヒリエンナルモノスマルト氏ト懇親ヲ結ビ又其良妻ニ接對スルニウヒリエン氏ハ粘液膽液質ニシテ其他スマルト氏ノ夫婦

ト符合シ且ツ交際ニ巧ニシテ才能ニ富メルモノタレバ遂ニ其婦人ノ懇友トナリテ其信實ノ交事ハ他人ノ得テ之ヲ窺フ能ハサルモノアルニ至ル而シテウヒリエン氏ノ人タル全ク修身ノ道ニ暗ク又宗門ノ教ニ乏シケレバスマルト氏夫婦ハ元ヨリ其人ノ甘言ヲ以テ諸人ヲ籠絡スルヲ探偵セズ又ウヒリエン氏ハ始メヨリ其身ノ惡漢タルヲ知ラシメサレバ此夫婦ハ更ラニ此狡猾ニシテ恐怖スベキ人ノ本心ヲ考察スルヲナシ然ルニ此新友ハ全クスマルト氏ノ細君ト相ヒ異リタル質ナルヲ以テ両者ノ電氣



質ハ全ク同シカラズシテ不幸ナル婦人ハ其新友ト  
 磁氣ノ感力ニ於テ奇異ナル快娛ヲ感覺セシガ為メ  
 ニ此學識アリテ愛敬スヘキ婦人ハ尊恭シテ終生其  
 身ヲ委任シタル良夫ヲ顧ミス愛戀ノ極遂ニカヒリ  
 エン氏ト墻ヲ踰ヘテ逃亡スルニ至レリ偕テ此逃亡  
 ヲ聞クヤ世間一般驚愕シテ此婦人ノ至愚ナルヲ評  
 論セリト雖モ親和ノ法即心情体上ノ適合法ヲ能ク  
 理解セバ更ラニ驚駭スルノ理由ナキモノトス  
 博士シリマン氏ノ言ニ云ク千八百二十三年六月同  
 氏ハ一人ノ朋友ト共ニ「ホドソン」河ノカストスキル

ヲ渡リ其河流ニ傍フテ馬車ヲ馳スルニ其道路ハ甚  
 タ狹隘ニシテ一方ハ河水ヲ以テ之ヲ限リ一方ハ嶮  
 堤ノ之ヲ覆フニ雜草ヲ以テスルアリ二氏ノ此地ニ  
 達スルヤ偶マ諸種ノ禽鳴群ヲ成シテ道路ノ右方ニ  
 飛ビ左方ニ翔ルアリシカバ頗ル興アルトニ思ヒテ  
 其飛上飛下ニ從テ馬車ヲ回轉シ或ハ退キ或ハ前ミ  
 或ハ逡巡シテ一處ニ留マリ或ハ馳駈シテ前路ヲ尋  
 子シカ氏到底鳥語ノ喧噪ナルガ為メニ遠ク前進セ  
 ズシテ唯何故ニ斯ク亂鳴スルヤ疑ヒ惑ヒテ心ナラ  
 ズ右ヲ顧ミ左ヲ臨メバ忽然トシテ一黒大蛇ノ半身



蜿蜒トシテ其頭ヲ地上ニ舉ケ舌ヲ吐キ目ヲ光ラシ  
 其狀貌極メテ猛烈ナル勢ナリキ是ニ於テカニ氏ハ  
 初メテ小鳥ノ淨飛セル源因ヲ看破了察スルヲ得タ  
 リサレバ馬車ノ漸ク蛇邊ニ近ツクニ驚愕シテ大蛇  
 ハ倉卒叢中ニ退去シテ再ビ其形ヲ現出セズ而シテ  
 其叢中ニ隠ル、ヤ群鳥ノ噪聲モ頓ニ鎮靜シ林中又  
 一點ノ聲音ナシ雖トモ最初集合セル鳥群ハ猶ホ飛  
 去ラズシテ更ラニ近傍ノ小枝ニ飛來リ共ニ諸方ヲ  
 回顧シテ其狀態ヲ察スルニ方サニ再ビ強敵ノ現出  
 スルヲ待ツアルガ如シ是レ他ナシ大蛇ノ小鳥ヲ眩惑

セルナリ之ト同轍ニシテ男子ハ質ノ相反セル婦人  
 ヲ眩惑シ之ト共ニ脱走ス今余ガ此博士ノ言ヲ説述  
 スルノ旨趣ハ或ル婦人ノ品行ハ恰モ談話中ノ鳥ト  
 其所行ヲ異ニスルヲナキノ理ヲ讀者ニ知ラシムル  
 ニアリテ彼小鳥タルモノハ其飛去ルヲ得ベキ時ニ  
 却テ逡巡躊躇シテ大蛇ニ眩惑セラレ此婦女タルモ  
 ノハ數バ男子ノ電氣力ニ係リ其食餌トナラザルモ  
 ノ殆ンド尠シ是故ニ宗教ヲ篤信スルノ婦人モ時ト  
 シテハ踰牆ノ醜事ヲ以テ教會及ビ世人ヲ吃驚セシ  
 ムルヲアリ若シ放蕩無頼ノ徒アツテ婦人ノ貞節ヲ



造作和事二編二韓  
三十三  
宿陽堂藏

破壊スベキ適度ニ其磁氣カラ鼓舞スレバ婦人貞操  
ヲ固守スル間ハ更ラニ之ヲ意トセサレモ磁力ノ相  
カタクモル  
ヒ翁收スルガ為メニ蕩子ヨリ發スル氣氣ハ快美ニ  
シテ其感觸モ亦悪カラサレバ婦人ハ幾何カ蕩子ノ  
惡計上ニ陷ルベシ蓋シ其夫ニ信セラレンヲ欲シ又  
其夫ニ信實ヲ盡サント欲スル善良ノ婦人ガモ時ト  
シテ蕩子ノ誘導ニ從フニ至ルハ實ニ此理ナリトス  
爾後胸中ニ悔悟ノ念ヲ起シ又其夫ヲ欺キシテ知  
了スルガ故ニ其夫トノ交情ハ自然清快明ナラザ  
ルベシ此不快ナル想考ヲ胸中ニ貯藏スレバ夫婦ノ

交感ハ必ず快娛ナルヲアラスシテ同住一居ノ困難  
ナルヲ實ニ之ニ倍スルヲ以テ此際ニ當ツテ情人ノ  
婦人ヲ煽動シテ其ニ遁逃スルヤ極メテ容易ナリト  
ス前ニ説述セル鳥群ハ蛇ノタメニ啗食セララル、  
ヲ好マサレハ其磁氣ノ幻力全ク絶タル時ニ飛去ラ  
ガレバ能ハズ婦人モ亦タ然リ欺眩者ヨリ發スル磁  
氣ノ幻力ニ襲撃セラ、  
ノ顔前ヲ避ケ絶テ接近スルヲナカルベキノミ  
婦人ハ亦タ數バ質ノ相反セル男子ヲ賺惑シテ痴愚  
ナル不良事ヲ謀ラシメ時トシテハ之ヲ勸奨シテ無

造作和事二編二韓  
三十二  
宿陽堂藏



依無歸ノ家眷ヲ抛擲シテ共ニ逃亡セシム借テ婚姻  
ニスケナ ヤカラ ウチステ ニケウ  
 ヲ結ブニ當テ心情ト体上トノ適合法ヲ監察スレバ  
 是等ノ弊害ト踰牆逃走ノ陋俗ハ著シク省減スル  
ワサハ カケ オケ イキキナシ カシカミ  
 アラン充分ノ親知(即チ)ヲ得ルアレハ第三物(即チ離  
ハ更ラニ チカラ オコ  
 ハ更ラニ其親和ノ勢力ヲ振起スル能ハズ  
 曩キニ論ズルガ如ク世人ノ唯耦ヲ得ルト得サルト  
 ハ男女交構ノ理ニ暗キニ依テ時ニ破壊スルアリ  
 慾情ノミノ婚姻ニ於テハ他人ト享受スル快味ハ夫  
イロミ オホユル ニイワクル ニキコナ  
 婦ノ間ニ感覺スルモノ、右ニ出ツル能ハスト彼此  
 互ニ相ヒ飾言スル世間ノ夫若クハ妻タルモノ、通

誤ナリ此事ヤ大イニ道理ニ戻リテ其正理ノアル所  
 ハ全ク之ニ反セリ殆ンド常ニ夫婦ノ相對シ相接ス  
 レバ其自然ノ電氣質ヲ充分改新スル能ハズ之ガ為  
 ニ体上ノ適合スルノ僅カナル人ハ實ニ夫婦ノ間ニ  
 電氣ノ適合ヲ得ルヨリハ各個ニ對シテ高度ナル電氣  
 ノ適合ヲ有スルモノアリ然レバ若シ兩人共ニ數バ  
 接近スルノ自由ナレバ高度ナル電氣ノ適合ハ只偶  
チカヨル コトカラ  
 マ有スルヲ得ヘシサレバ此實ニ暗キハ時トシテ  
 ハ梟鏡ナルト其他諸般ノ件ハ踰牆ノ原因トナリ夫  
ワツカ モロク カクナク ヒト  
 ハ其妻ヨリ体上ノ適合ニ於テ一層僅少ナル婦人ト



穴隙ヲ鑽テ相ヒ窺フヲ以テ満足ス然レモ此婦人ト  
 ハ前嘗テ此ノ如ク直接セザルヲ以テ此兩者ノ電氣  
 質ハ數年間寢食ヲ共ニシタル妻ト吾身トノ間ニ存  
 スルモノニ比セバ大イニ異ナル所アリ眩惑セラレ  
 タル人ハ只管此背理ノ情人ヲ以テ舊來ノ妻ヨリ吾  
 身ヲシテ快娛多カラシムルモノト思考シ其施行ス  
 ル所ノ結果ハ到底相携ヘテ出走スルニアルノミ而  
 シテ此兩者ノ電氣僅カニ一周若クハ一ヶ月ニシテ  
 相平均スルニ至ルベシ是ニ於テ此呆子ハ其本妻ト  
 世人トガ其前惡ヲ咎メズ其罪狀ヲ免ルセバ此輩ハ

必ラズ悦ンデ再ビ家ニ還ルベシ又交合ノ理ニ暗キ  
 婦妻ハ時トシテ奸者トナリ其夫ノ為メニ其姦事ヲ  
 發覺セラレザルニアラザレバ踰牆ノ超畫ヲ行フニ  
 至ルヲ一般ナリ今論述セル景況ニ於テ先ツ妻ハ大  
 膽ナル企計ヲ行ハザル前ニ其情人ト体上ノ適合セ  
 サル所以ヲ知ルヘキ機會アルモノナリ偕同質ナル  
 人類ノ間ニハ速カニ電氣質ノ平均ト同等トヲ生出  
 セリ夫レ電氣質一時ノ不同ヨリシテ全ク萌起シタ  
 ル淫慾ニ心醉シ其間ハ能ク適合セサル情人ノタメ  
 ニ能ク適合シタル良人ヲ擯斥放棄スル妻アリ豈ニ



不良ニシテ且ツ其身ニ不幸ナリト謂ザルベケンヤ  
 抑モ男女共ニ交媾ノ理ヲ曉解スルハ甚ダ樞要ノ事  
 件ニシテ此理由ハ夫婦ヲシテ相互ニ信任ヲ置キ大  
 イニ姦曲ヲ行ヒ踰牆奔竄等ノ弊害ヲ拒止スルノ補  
 助トナラシムルニ至ルヘキナリ  
 已ニ婚姻ヲ結ビタル人ニ於テ衣裳ヲ飾ラズ又容貌  
 ヲ理メザルハ時ニ踰牆ノ原因トナル一記者  
 ノ言ニ曰ク結婚ノ後チ婦人ノ踈懶トナルハ通常ノ  
 変ナリト又結款セル婦人ハ裝飾ノ外尚ホ他ニ主理  
 スベキ変アルノ説ヲ建テ、其裝飾ヲ怠タルハ世間

ノ通例ニシテ演戲探勝等ノ時ニ際スルノ外ハ必ズ  
 家ニ在リテ大イニ裝飾ヲ怠ル一アリ夫レ已ノ羽黨  
 ニハ大イニ尊敬ヲ表セリト雖モ其他固ヨリ敬禮ヲ  
 盡スヘキ條理ニシテ且ツ此敬禮ヲ受クヘキ權理ア  
 ル人ニ對シテハ放擲シテ更ラニ之ヲ施サズ是レ良  
 事ニアラズト雖モ通常皆ナ然リ人若シ某婦人ニ對  
 シテ其外貌ヲ裝フ所以ヲ問ハバ婦人須ク之ニ答ヘ  
 テ云フベシ良人ハ即チ余カ夫ナリ余ハ別ニ後來ノ  
 為メニ策ヲ設ケズンバアラズ蓋ソ之カタメニ形貌  
 ヲ裝理スルニ及バンヤト又人ノ夫婿タルモノ或ハ



極メテ吝嗇ナル賤奴ニシテ其妻ヲシテ美飾シテ愛  
 スベク善良ニシテ温順ナラシムヘキ閑暇ト方便ト  
 ヲ與ヘザルガ如キモノアリサレハ世更ニ熟達スル  
 ニ隨ヒ婦妻ハ益々其夫并ニ外人ノ心ヲ得ヘキ様ニ  
 盡カスベキハ固ヨリ論ヲ待タザルナリ  
 男子モ亦婚姻ノ後其裝飾ト所行トニ不注意トナル  
 一數バクニシテ皆ナ已ニ彼此相ヒ整頓スルコトヲ自負  
 シテ更ラニ甘言艷貌美服ヲ要求スルコトヲナシトシ婚  
 姻シテ夫婦トナルヤ両者共ニ數バ敝衣敗裘ヲ着シ  
 互ニ穢醜ノ態ヲ現スコトアリ今茲ニ他ノ籠中ニアル

諭力強キ人ヲ遠望シ或ハ未タ閨情ヲ知ラサル人ニ  
 心醉スル夫若クハ婦アリテ其篋ヲ破テ愛戀スル新  
 者ト脱走スルヲ聞クアラハ何人カ之ヲ驚カサラン  
 ヤ  
 然レハ結婚ノ後裝飾ヲ廢スルハ一般ニ心情体上共  
 ニ不適合ナルヨリ生スルモノニシテ其不適合ヨリ  
 夫婦ノ間ニ不幸不良ノ事ヲ生スルモノナリ夫レ知  
 巧ナル法ヲ設テ此弊ヲ洗除セバ後來必ズ朱陳ノ不  
 幸ハ省減シテ婚姻ヲ結ビタル徒ノ姦通シテ踰牆ス  
 ルモノハ極メテ僅少ナルニ至ルベシ



第三章

子宮ノ弛落ヲ論ス

子宮弛落ノ萌生スルハ世ノ開化隆盛ト殆ンド相ヒ  
 並行シテ進歩スル者アリトノ説アリ而シテ遍歴家  
 ハ皆ナ野蠻及ヒ半開國ノ婦人ニ此苦患アルモノ甚  
 ダ尠シトノ説ヲ主張セリ而シテ子宮ノ弛落スルハ  
 何等ノ原因ニ根シテ何類ノ病源ニ属スルヤハ宜シ  
 ク醫家改俗家等ノ考按ヲ要スベキ一大要件タリト  
 ス  
 腹筋又ハ子宮筋ハ不充分ナル神經激衝ノ為ニ緩弛

セラレ或ハ白帶下ノ病苦ニ因テ軟弱セラレ臆ハ其  
 両壁内ニ其固有ノ位置ニ機關ヲ保ツ能ハサルニ至  
 ル時カ或ハ甚々多害ノ風俗ニ因リ筋構ノ至弱ナル  
 婦女ヲシテ其中腹ヲ壓束シ本然ノ坐外ニ其胃ト腸ト  
 ヲ推下セシムル時ナルカ或ハ便秘ノ為ニ両腸内ニ  
 濁滓物ヲ充實シ之ヲ排脱セザルカ為ニ子宮ノ頂ト  
 背トニ壓搾ヲ生スル時カ或ハ孕婦ノ方ニ胎児ヲ子  
 宮ヨリ娩出セシムヘキ者ヲシテ墮胎ヲ致スヘキ方  
 術ヲ施セル時ノ如キ各般ノ原因ニ依テ一般子宮弛  
 脱ト稱スル甚々難症ノ病患ヲ發作スルハ通常ナリ



此病患ハ大抵人ノ妻トナレル婦人ニ多シト雖凡未  
 ダ許嫁セザル處女モ必ズ之ヲ患ヘザルニ非ズ今若  
 シ詳カニ該病ニ罹ル患者ヲ筭計シタランニハ必ズ  
 讀者ヲシテ吃驚セシムベキナリ  
 子宮ノ弛脱スルヤ其占ムル所ノ位置ハ千種万様ニ  
 シテ或ハ左方ニ墮テ或ハ右方ニ落テ時トシテハ全  
 ク顛倒スルモノアリ或ハ子宮ト腔ト共ニ弛脱シテ  
 子宮ノ頸ハ全ク突出スルニ至ルモノアリ又其頂ハ  
 腔ノ一方ヲ推シ頸ハ他方ヲ衝キ頂ハ其前壁ヲ推ス  
 モノアリ而シテ其最モ多キハ前方若クハ後方ニ墮

落シテ斜ニ傾ク者ナリ甲圖ハ子宮ノ前方ニ墮落セ  
 シヲ顯ハス者ニシテ此ノ如キ位置ニアル者ハ一般  
 ニ其子宮口ハ只稍腔ノ後壁内ニ隱伏セルモノナリ  
 故ニ茲ニ示セル圖ヲ以テ能ク此位置ヲ明指スルナ  
 シサレ凡膨脹ヲ推タル位置ハ圖中ニ就テ明晰ナリ  
 而ノ其位置ニアル時ハ數バ尿水ヲ排泄スベキ念ヲ  
 萌セリ乙圖ニ顯ハセルガ如ク後方ニ墮落セシ時ハ  
 直腸ヲ推スヲ以テ滓屎ノ排泄ヲ妨ケ其ガタメニ便  
 秘ニ悩マシム又子宮ノ頸膨脹ノ頸ヲ推ス時ハ排泄  
 スルニ困難ニシテ痛苦アリ即前方ニ子宮ノ墮ルキ



筋ノ弛ムヲ甚タシキカ故ニ子宮ヲシテ膨脹ノ上部  
 即最大部ヨリ下ニ降下セシムレバ此苦痛ヲ生セリ  
 夫レ通常子宮ノ墮落スル病徴ハ腸ノ下部ニ於テ物  
 フ拽下スルガ如キ感覺アツテ關節ニ痛アツテ痺  
 シ腰及ヒ背ノ下部ヲ疲弱シ全軀ノ疲衰ヲ生シテ身  
 ニ徹スヘキ刺痛アリ是等ハ通例一般ノ病徴タリト  
 思察スルト雖<sup>イタミ</sup>氏實際上數バ經見シタル子宮弛脱ノ  
 症ニ於テ痛苦ナキ局部ノ病徴アルヲ説明セザルベ  
 カラズ此ノ如ク子宮ノ本坐ヲ離ル、ノ起<sup>ホシマキコロ</sup>因ハ少年  
 ノ時ニアツテ漸々天然ナラサル不正ノ位置ニ至ル

者アリ斯ノ如キ時機ニ當リ醫士ハ子宮ノ機關ヲ  
 傷セルヲ疑フ片<sup>ハアヒ</sup>患者ハ全ク其局部ニ恙ナキヲ陳  
 述セリ抑モ患者ハ該種ノ困苦ニ罹レル病徴ヲ患フ  
 ル者ハ未ダ曾テ一人モ之ヲ聞知セサルヲ以テ斯ク  
 考フル理ナレ<sup>キ、シウ</sup>氏其醫士ノ的中スル<sup>アテ</sup>一田ノ點驗ヲ  
 以テ晰ナリ而メ其健全ナラザルハ直接或ハ間接ニ  
 子宮ノ本坐ヲ勤移スルヨリ生スルハ一般ニ該種ノ  
 病症ヨリ發見セラレタリ  
 白帶下ハ通常一般ニ發作スル所ノ病ナリ此病ヨリ  
 シテ子宮ノ弛落ヲ伴フ<sup>オコル</sup>最モ多シ若シ多少ノ血積



ト共ニ痼質ノ刺痛或ハ熾衝ヲ發スレハ生中ノ一因  
 難更ニシテ結欵セシ人ニハ快感ヲ覺テ兎ヲ孕トガ  
 如キ天祉アラズシテ却テ災害アルヲ以テ若シ之ヲ  
 治療痊愈セザレバ患者ノ生命アルノ間ダ常ニ之ニ  
 固着シテ離ル、ナク幾年月久キヲ經テ鬱々憂苦ニ  
 沈ミ終ニ勞瘵或ハ他病ノタメニ貴重ナル生命ヲ棄  
 ルニ至ルベシ  
 此病ニ係ルノ人其初メ起ルノ時ニアリテ歩行スル  
 ハ筋力ノ缺亡ヲ回復スルガ為メニ樞要ノ動作タリ  
 ト雖此病漸ク篤キニ及ンテ歩行セバ一般ニ痛苦

酷シクメ堪ユル能ハザルモノトス此ノ如キ時ハ數  
 バ手ヲ以テ腹部ニ折枝ヲ施行スベシ夫レ健全ナル  
 人ノ手ヲ以テ諸筋ヲ推攢揉柔スルハ各般ノ病ニ於  
 テ大イニ良效アル者ナルヲ以テナリ







